

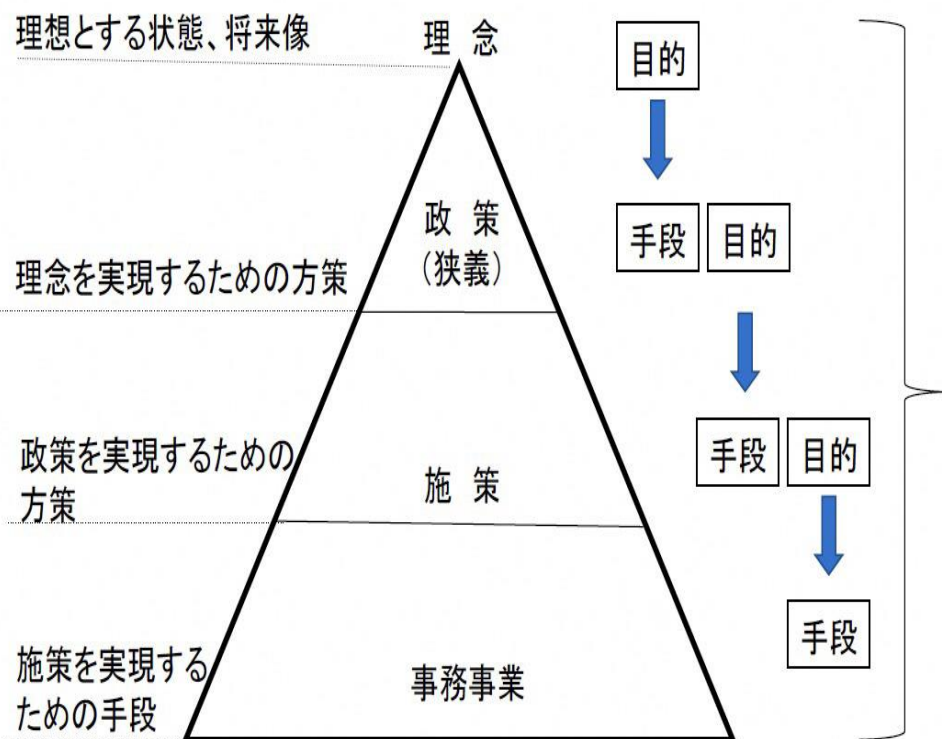
(仮称) まちづくり構想 福知山
全体像と長期ビジョンのイメージ

令和3年8月3日

福知山市 市長公室 経営戦略課

政策の構造

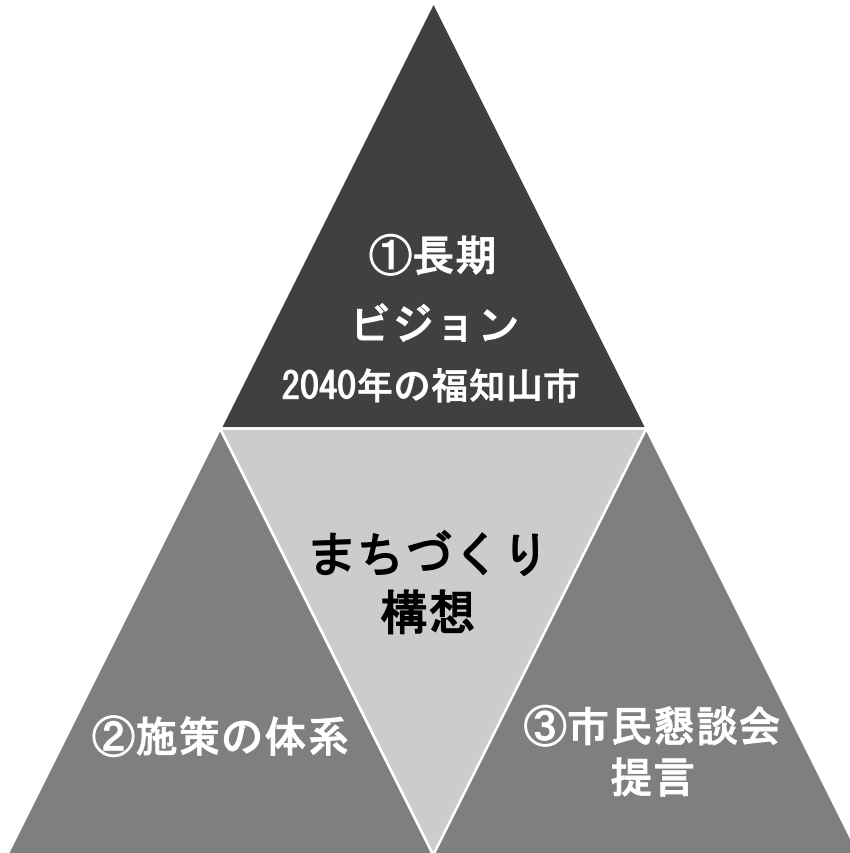
政策体系(政策の構造)



- 政策は階層性を持つ。
「目的－手段（目的）－手段（目的）－…」という関係が連鎖的につながる体系（より高次の目的を達成するための手段、さらにその手段の実現を目的として、これを達成するための手段…といった関係が階層的に連鎖）

- この「目的－手段」の連鎖からなる体系を「政策体系(政策の構造)」という。

まちづくり構想の全体構成



まちづくり構想は、3つのパートで構成する。

①長期ビジョン

・2040年の福知山市を想定し、市民が共有する理念と、それを実現するための政策を位置づける。
(2ページでは「理念」・「政策(狭義)」に該当)

②施策の体系

・①を受けて、将来から現在を振り返り、今後5年間で取り組む主な施策の方向の体系を位置づける。
(2ページでは「政策(狭義)」・「施策」に該当)

③市民懇談会提言

・①を実現していくためには、行政だけでなく、市民が行う社会的・公共的な取組も重要な役割を担うことから、市民懇談会でまとめられた市民自らが進めるまちづくりを位置づける。
(市民の取組として、②施策の体系に基づく行政の取組とともに、「理念」・「政策(狭義)」の実現をめざす)

《自治基本条例による「市民と市の協働のまちづくり」》

- ・本市の自治推進の最高規範である「福知山市自治基本条例」では、前文において「市民と市が一丸となってまちづくりを進めていく必要があり(中略)市民と市が相互の信頼関係をより強化し、それぞれの役割と責任を果たして課題解決のために協働によるまちづくりが重要である」とされています。
- ・また同条例第16条では「市長は、総合的な市政運営の指針として基本的なまちづくりの構想を策定し、市民参加のもと計画的な行政運営に努めなければならない。」をとされています。

長期ビジョン構築の流れ

ペルソナを描く

2040年の福知山市に暮らす等身大の人物像を描く

社会的課題の抽出

2040年に市民が幸せに暮らしていけるよう、ペルソナから抽出した社会的課題をまとめる。

ビジョンを描く

市民が幸せに暮らしていけるまちをめざし、「幸せの4因子」と呼ばれる考え方をもとに端的に理念（ビジョン）としてまとめる。

政策の方向を打ち出す

社会的課題と、理念（ビジョン）から政策の方向性を整理する。

ペルソナとは

《ペルソナとは》

- ・ペルソナ(Persona)とは、心理学の用語で「人間の外的側面・自分の内面に潜む自分」(ユング)と定義されている。
- ・マーケティングの世界では、この「仮面の自分」という考え方を発展させて、「架空のユーザー像・人物、モデル」という意味で使われ、商品開発やサービス展開の戦略の方向性や具体的な施策を立てるために用いられる。

《まちづくり構想においてペルソナの活用方法》

- ・将来のまちづくりを抽象的に考えるのではなく、将来時点で現実的に存在しているであろうペルソナ(等身大の人物)の人生や暮らし、悩みなどを通して、その背景にある社会的課題を抽出し、その解決策を検討することで市民が幸福に暮らせるまちづくりの実現を図る。

《ペルソナ作成の方針、留意点、作成過程》

- ・上記ペルソナの設定に当たっては、市役所若手職員で構成する4チームにおいて、1チーム1人ずつ、計4人の「2040年に現実にいるであろう等身大の人物設定」を行った。
- ・人物設定に当たっては、設定する職業に実際に就いている方や設定年齢の方など、各チームとも10人以上にインタビューを行い、生の情報を入手し肌感覚も含めて人物の理解を深めた。また併せて、職業等に関する各種データも集め、「登場人物が多忙な業務に従事しながら生活している」というような客観的な状況確認も行った。
- ・社会的状況を考える際には、国や民間シンクタンク等の将来予測も参考に、2040年における時代背景などの考察を行った。

ペルソナ1



息子たちに、同じ思いはさせたくないけれど

奈良井則夫さん(仮称)(南有路在住 90歳 男性 無職)

則夫は、2歳年下の妻・佐都子と二人暮らし。長らくリウマチを患い、3年前からは認知症が出始めた妻の介護をしながら、地域の担い手として頑張れるうちとは自治会長を務める則夫。ちょっとずつ、しかし確実に、将来への不安が募ってきています。

則夫は、高校を卒業して大阪で就職し、長らくふるさとを離れていました。定年を迎えた30年前、2人の息子も独立し、「妻とゆっくり第二の人生を」と思っていたところ、1人暮らしの母が脳梗塞で倒れて寝たきりに。それまで農作業や行事の時にはできるだけ帰るようにしていましたが、母の介護のためUターンすることになりました。さまざまなサービスを利用しながら妻と力を合わせて在宅で介護を続け、その5年後に母を見送りました。

2人だけの生活になった65歳頃からは、いつも助けてくれた妻の笑顔が最優先の則夫。趣味の旅行が高じて年に一度は海外へ。一緒に地域づくりの輪に加わったり、トレッキングを楽しんだり、すっかり田舎暮らしになじみ満喫していました。ただ、福知山とは縁の薄い息子たちは、孫が大学生になった頃から足が遠のくようになりました。昔取った杵柄でICTは得手なので、最新の機器をうまく使いこなしてやり取りしているものの、やはり寂しさもあります。

そんな妻との暮らしも、認知症が出始めてからは一変しました。分担してきた家事は、ほとんど則夫がするように。それでも、認知症サポーターの支えや配食サービスなどをうまく利用してバランスを取るようになっています。5年前に免許を返納したので、妻の月に一度の診察は訪問でお世話になっています。加えて、オンライン診療で何時でも診てもらえるし、生活必需品はスーパーの配達が充実しているので、日常生活の大変さはだいぶ緩和されています。

妻の認知症が明らかになる前に、まだまだ現役と引き受けた2度目の自治会長職も、妻の介護一辺倒にならずに済んでいるので務め続けられています。ICTの活用が進んだ自治会長の仕事も、則夫の長所をうまく生かしているようです。周辺も多くが高齢者なので、お互いの気持ちもそれなりに理解できていますし、無理のない範囲で支え合おうという地域の気づかいや役割分担が当たり前になっていることが、則夫にとっては何よりも心強いようです。

とは言え、人生120年時代と言われて久しい今日。大江に帰ってから今までと同じ年月が、これからも待っているかと思うと、途方に暮れることもしばしばとなってきました。若い頃からの蓄えも底が見えてきて、家や田畑の維持、医療や介護など、年金生活だけでは厳しくなってきました。則夫自身は今のところ健康診断の結果も良好ですが、自分に何かあったら妻がどうなるかと心配でなりません。息子たち、孫たちには迷惑をかけたくない、自分と同じ苦労はさせたくないと思いながらも、頼りたくなる気持ちも日増しに強くなってきています。

ペルソナ2



充実した人生だったはずなのに

堀 大輝さん(仮称)(夜久野町在住 55歳 男性 会社員)

大輝は、82歳の父と80歳の母との3人で、上夜久野の実家暮らし。信用金庫の支店長として忙しくしている傍ら、中学年代のサッカー指導者を20年続けてきました。息子2人も無事に就職・進学して、傍目には順風満帆で平和な家庭なのですが、実は1年前から妻と別居中。家族のこと、仕事のこと、子どもたちのこと、悩みが絶えない毎日です

大輝は、体育会サッカー部で培った体力と粘り強さを武器に、Uターン就職後は営業畑でがむしゃらに働いてきました。第4次産業革命やコロナ禍に直面してきた、この30年。業態転換やスタートアップを支援しつつ成績を挙げてきた大輝ですが、事業承継や新技術の導入がうまくいかず廃業した経営者も数多く見てきました。なかでも、周辺市町の人口減少が労働力や販売面で市内経済に想像以上に影響を与えており、事業者とともに苦心しているのが現状です。

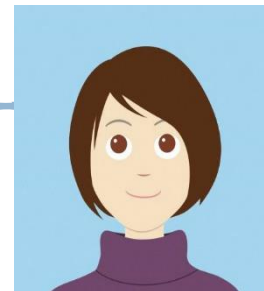
サッカーの指導は、ブラック部活という記事を見て衝撃を受けたことがきっかけでした。体罰やパワハラめいた指導で挫折しかけた経験を生かしたら、それが先生たちの助けになるのなら、何より子どもたちにスポーツの楽しさを、と思った大輝。指導者資格も更新を重ね、平日3日の練習と週末の対外試合を欠かすことはありません。ただ、皆に出場の機会を与えたい一方で勝利を期待する周囲の声は悩ましく、思春期の子ども相手の難しさも痛感しています。

父が転倒して脚を骨折し退院後も介護が必要となり、母も足腰が弱って生活に支障が出て来た1年前に、大輝は24年間の思い出の詰まった前田の家を売って実家に戻ろうとしました。ところが、同じ信金の本部に勤めている妻は別居を選択。綾部に1人で暮らす義母の様子も3年間見てきた妻にとって、好きなことばかり打ち込んできた揚げ句、突然の決断を言い出した大輝は許せなかったからです。以来、大輝は仕事と介護の両立を図ろうと四苦八苦しています

京都市内で美容室勤めの長男は、そろそろ独立・開業を考えているようです。福知山に戻ることも視野にはあるものの、馴染みのお客さんを失うことと将来的な事業性にリスクも感じているようです。東京の大学に進学している二男は、元々は福知山に帰りたと言っていました。ただ、海外の大学や企業との共同プロジェクトなどを通して、海外での仕事に興味を持っているようです。「ようです」と伝聞調なのは、大輝は妻を通して子どもの話に触れるからです。

何よりも一番大切にしてきたはずなのに、それぞれバラバラになってしまっている家族の状況を何とかしたい。定年は事実上なくなっているものの、役職定年の60歳が近づいていて、両親・義母の今後も含めて不安ばかりが先に立つ。なのに、充実した人生で常に周囲を引っ張ってきた大輝は、こうした悩みを吐露することが苦手で相談することが出来ません。取引先の社長が同じようなことを言っていたなど、あの時もっと一緒に向き合ってもらえたら何か変わっていたのかなと思いつつ、両親が床に着いた後の酒量が増えるばかりです。

ペルソナ3



子育て、家族、仕事、三兎を追えるでしょうか

衣川葵さん(仮称)(和久市在住 35歳 女性 養護教諭)

葵は、同じ年の夫・大翔と4歳の長女、生まれたばかりの二女、義理の両親の6人暮らし。夢であった養護教諭となって14年目の現在は、産休を取りながら市立フリースクールのサポート業務にあたっています。支える側で力を発揮してきた葵ですが、長女が発達障害と診断されたことで、当事者としての悩みに直面するようになりました。

葵は、与謝野町生まれ。出産時に母の病気が見つかったため、環境の整った市民病院で誕生しました。幼いころから活発で、今も続けているバレーボールは中学から始めました。練習中のケガで保健室に運ばれたとき、優しく笑顔で接してくれた保健の先生にあこがれ、それが葵の将来の夢となりました。大学時は、試験勉強の傍らスクールソーシャルワーカーとしての経験も重ね、遂に子どもの頃から縁のあった福知山で勤務することとなったのです。

学校現場の働き方は改善されてきたものの、葵の仕事は多忙を極めています。保健室での救急措置や体調不良対応はもとより、健康診断の管理、メンタル面も含めた健康相談、児童の状況に則した保健指導、学校医との連携など、校内だけでも多岐にわたります。その他、市の子ども関連の委員活動も重要な職務のひとつ。この産休中にも、疾病予防や環境衛生、相談・カウンセリングの技量をアップデートするための研修が山積みとなっています。

そんな忙しさも、持ち前の元気と笑顔で乗り越えてきた葵。29歳で結婚し、2年後に長女が生まれてからは、葵と入れ替わりで育児休業を取得した夫が主体的に担ってくれたことや、結婚直後から一緒に住んできた義父・義母の支えがとても心強く、心底頼りにしています。それが、長女が1歳半健診で自閉スペクトラム症(ASD)と診断され、さらに二女が生まれてからは、この環境のまま良いのだろうかと思うようになってきました。

長女は、2歳頃から環境の変化や人の多い場所に敏感になることが顕著となってきました。そこで葵は、日本でも当たり前になってきた超早期療育プログラムを受けさせようとしたのですが、福知山では実施機関がないことから、定期的に京都市内に通い続けています。両親も一所懸命に長女に向き合ってくれてはいるものの、一度パニックになると周囲も驚くほどの泣き叫びとなる孫に手を余している様子で、葵にとっては気がかりでなりません。

本当であれば、葵は年度替わりの4月に職場復帰する予定でいました。ですが、療育は継続が大事なもので、いっそのこと京都市内に転居して復職先も変更希望を出そうかとも考えるようになりました。とは言え、仕事に戻ったときに、産休・育休中のように娘に関われるのか。夫とは現実的な話を重ねているけれど、両親には何て相談したらよいのか。支援にあたって子どもたちの様子も気にかかる。まさか、養護教諭を天職としてきた自分が当事者となるなんて。決して悲観的になっているわけではないけれど、葵の悩みは尽きません。

ペルソナ4



あの時の私、懸命になりすぎていたのかな

細見 ミカさん(仮称)(細見在住 25歳 女性 工場勤務)

ミカは、父と母、弟2人との5人暮らし。夢破れて福知山に帰ってきて、地元の会社で契約職員として働いています。本当だったら、今頃は海外勤務でバリバリ仕事をしていたのかな。帰ってきた当初は、彼氏との今後も含めて、不透明な将来にため息をこぼしてばかりいました

ミカは、母がよく聴いていたテ일러・スウィフトが好きになり、英語に興味を持つようになりました。中学の時には市の短期留学制度を利用してオーストラリアに行ったり、実家に1か月ホームステイしていたエマに刺激を受けたりしながら、海外への関心を強めたミカ。大学は、第1志望は叶いませんでしたが外語大に入学し、奨学金でアメリカへの留学も果たせました。起業の夢をもつ初めての彼氏もできて、この頃は将来への希望で溢れていました。

留学や日本文化が好きな友人との交流を通して、ミカはグローバルに活躍したいと思うようになりました。なかでもサービス・ホスピタリティ業界に関心を持ち、海外大学のオンライン講座でホテル経営やマーケティングを学び、フロントのアルバイトで経験も積みました。が、ことごとく内定はもらえず、外資系ホテル勤務というミカの希望は叶いません。ブライダル会社へ就職はしたものの国内が中心。悶々とした思いが晴れることはありませんでした。

就職先でのミカは、日々の業務で一杯一杯。感動をサポートするという思いも果たせず、心身がすり減りダウンしてしまったため、ほどなく退社して福知山へ帰ることとなりました。3か月の休養を経て、半年前からは週3日、近所の工場に勤めています。国際的に展開する企業の子会社なので海外とのやり取りも頻繁で、新鮮な思いがミカにはあるようです。彼氏も、福知山での起業の可能性を探るために月に数回は来訪してくれ、だいぶ心が安定してきました。

ミカの年長の弟は、地元大学でソフトウェア開発を研究していて、海外大学とオンラインの共同研究も行っている様子です。元々は開発会社への就職や起業を考えていたのですが、最近は海外での研究にも興味を持ち始めました。ミカは、そんな弟を見ていて、幅広くいろんな角度から自分自身や仕事を見ている会社の人たちとの共通点に気づき始めました。母が勧めてくれた観光ガイドの講座を受けることにしたのも、そうした最近の変化が影響していました。

福知山に帰った頃には、そう間もおかずに結婚して彼のもとへ行こうかとも思っていたミカ。ガイド講座で市内のあちこちに足を運ぶうちに、故郷の自然や文化の魅力を気づかせてくれたのは実はエマだったな、と思い出しました。あの時、エマの郷里バイエルンの伝承との共通点を見つけ、2人で大盛り上がりしたことも。私って、いろんな人たちの感動や喜びを応援したいと思っていたのに、こんなに頑張っているのにと独りよがりになっていたのかな。ミカは、どうやら原点を思い出し、もう一度夢に向かって歩き始めようとしているようです。

社会的課題の抽出について

《社会的課題の把握に向けた検討手順》

■2040年のペルソナ（等身大の人物）の暮らしや夢の実現などに必要と思われることを抽出

・2040年に暮らす4人のペルソナを描き、それぞれの人生や悩みなどから「課題と考えられること」を読み取る。

■2040年に引継ぐこと、実現していることをペルソナの物語を踏まえて抽出

・福知山にある自然や文化の魅力やITエンジニアを育成できる地元大学などの資源を磨き、積極的に次代へ継承していくことも「課題と考えられること」としてペルソナから読み取る。

※課題を抽出するにあたっては、2040年に向けた外部環境の変化も考慮する



社会的共存を支える
一般的・共同的な性質

共同体の一員としての
望ましいあり方

■上記のそれぞれで抽出した「課題と考えられること」について、公共性や共通善という視点で（個人的な課題ではなく）社会的な課題であるかを検討する。

（例えば「時間や場所を選ばずにスキルを取得できる機会」という課題であれば、就職を前提とするスキル取得は個人の問題であるが、行政と市民が一体となって地域課題の解決に向けた取組を行っていくためであれば、公共性・共通善に合うため、社会的課題と位置付ける。）

以上のような考え方、手順により、市民懇談会での議論を踏まえて、社会的課題の把握を行った。

※次ページ以降で「2040年の福知山市における社会的課題（想定）」として整理する。

「2040年の福知山市における社会的課題(想定)」

市民懇談会 第1分科会のテーマ:安心して快適に過ごせるまち

分類	2040年に、あるいは今後20年間に、直面するであろう社会課題
自治会関連	少子高齢化・人口減少時代の自治会のあり方
	自発的・自主的な自治会と行政事務の受け皿としての自治会との線引き
	現役勤労者世代でも参加しやすい地域・自治会活動
	地域の伝統行事の価値の認識、情報発信
	自治会業務へのICTの活用による負担軽減
地域の姿	退職後Uターン者が地域に溶け込むしかけ、呼び込み策
	ほどよい距離感での地域での見守り、支え合い
	土足で踏み込まず、でも放っておくわけでもない、ほどよい距離感の地域生活
	多文化交流の機会や多様性を認め尊重し合う生活空間
生活支援	一つの生活拠点に縛られない多様な働き方やライフスタイルの実現
	高齢者のみ世帯向けの見守りや避難支援
	免許返納者に対する移動支援のあり方
	買い物や銀行、薬局などが「行く」から「来る」業態への転換
	男性が介護者となる場合に備えたスキル習得
	日々進化していくICTテクノロジーに後れないリテラシー習得
	日々のゴミ出しが困難な世帯への支援の仕組み
	ICTを活用したゴミの効率的な収集
	老老介護を持続可能とする日常生活支援
認知症の人のいる世帯を支援できる知識、経験を有する認知症サポーターの育成	
生活基盤の整備	快適な日常生活を送るのに必要な都市・生活基盤
	日常生活の過剰な重荷とならない在宅介護のあり方
	ゼロカーボンシティの実現に向けた施設のZEB化の促進
環境の保全、活用	トレッキングを楽しめる自然環境の整備
	自然環境の保全とともに、活用することによる地域資源としての価値の向上
	ESG投資の推進による市内事業所の企業価値の向上や気候変動等へのリスクマネジメント力の向上
多様な価値観の尊重	男女共同参画と言いながら実態として女性に子育て・家事全般に負担がいきがち

「2040年の福知山市における社会的課題(想定)」

市民懇談会 第2分科会のテーマ:子育てのしやすさと学びのまち

分類	2040年に、あるいは今後20年間に、直面するであろう社会課題
教育環境	子ども時代に、将来のキャリアにつながるロールモデルの獲得
	大学時代のボランティア活動が、将来のキャリア形成に寄与
	児童・生徒の夢や目標の端緒をそっと見守り支える教育環境
	家庭の経済状況に関わらず中学・高校時の海外留学ができる機会
	ホームステイの受け入れやオンライン学習等の情報共有
	ITエンジニアを育成できる地元大学
	地元の生徒が、地元の大学で高度な知識を習得
	思春期の子どもに心に寄り添う難しさ
	子ども達にスポーツや文化の楽しさを教える機会
	子どもの様々な学び、育ちを保障するフリースクール
リカレント教育	青年期になっても自己肯定感を育み、その人なりの努力と工夫を誘発するしくみ
	時間や場所を選ばずにスキルを取得できる機会
変わる学校	教員の負担減や週休2日制の導入といった部活改革の行方
	部活改革が進んでいくなかでの指導者のあり方や必要スキル、その確保策
	学校教職員の職務負担の軽減、休暇取得等を中心とした働き方改革
	学校教職員の公的な校外活動への関わり方、負担のあり方
障害のある子ども	健診の機会などを通じた発達障害児の早期発見、早期療育
	発達障害者支援センター(2021年現在、京都府北部にはない)などによる専門的・総合的なサポート
	発達障害児への知識がない親等のケア
	医療・学術の進展により認識を新たにすべき疾病や障害に対する理解のアップデート
	障害のある子どもを受け入れる保育所、放課後児童クラブ、放課後デイサービス
子育て環境	当たり前になる、妻と入れ替わりの夫の育児休業取得
	福知山でも可能となるフリーランスでの仕事など多様な働き方
地域資源の保護・理解	国立公園をはじめとする価値ある自然の保全、貴重な歴史・文化の伝承
	自然や文化の魅力を多くの人と共有し、次世代へ継承
	故郷福知山の風景や暮らしを後世へ継承
その他	多文化交流の機会や多様性を認め尊重し合う生活空間
	大学時代のボランティア活動が、将来のキャリア形成に寄与
	意欲ある者が起業にチャレンジし、その創意工夫をサポートする土壌

「2040年の福知山市における社会的課題(想定)」

市民懇談会 第3分科会のテーマ:健康で生きがいのあるまち

分類	2040年に、あるいは今後20年間に、直面するであろう社会課題
在宅介護、医療	在宅介護サービスの十分な利活用
	老老介護を持続可能とする日常生活支援
	男性が介護者となる場合に備えたスキル習得
	目の前に迫りつつある1人で両親2人をみる老老介護
	現役で仕事を続けながらの在宅介護との両立
	日常生活の過剰な重荷とならない介護のあり方
	壮年期になり、親の介護等をきっかけに仕事、家族などの関係性が崩れ、悩みを抱えても吐露することが苦手
	効果的な訪問診療が可能となる医療・介護・福祉の分野での多職種間の連携
認知症	足腰も弱ってきて家庭以外に日常活動の場がない人の認知症予防
	認知症の人のいる世帯を支援できる知識、経験を有する認知症サポーターの育成
障害のある人	健診の機会などを通じた発達障害児の早期発見、早期療育
	発達障害者支援センター(2021年現在、京都府北部にはない)などによる専門的・総合的なサポート
	医療・学術の進展により認識を新たにすべき疾病や障害に対する理解のアップデート
健康づくり	自分は大丈夫と過信している人の健康づくり、生活習慣の改善
	仕事・家事・育児などで多忙な現役世代の運動の習慣化
メンタルヘルス	多方面への関わりとは裏腹に不安をのぞかせている現役世代のメンタルヘルス対策
	当たり前になっているテレワーク従事者に対するメンタルヘルス対策
多様な生きがいづくり	高齢になれば認知症や介護予防の観点から家に閉じこもらず外出し、家庭内ではないところでの生きがいを見出す機会
	定年後も仕事を続けたい人の雇用の場の確保、スキル習得支援
	一つの生活拠点に縛られない多様な働き方やライフスタイルの実現
その他	出向く医療から来る医療(ICT技術による遠隔医療、訪問診療・看護)へ
	高齢者のみ世帯向けの見守りや避難支援

「2040年の福知山市における社会的課題（想定）」

市民懇談会 第4分科会のテーマ：産業振興と発信力のある魅力あふれるまち

分類	2040年に、あるいは今後20年間に、直面するであろう社会課題
地域経済・新産業	買い物や銀行、薬局などが「行く」から「来る」業態への転換
	周辺市町の人口減少が労働力や販売面で市内経済に与える想像以上の影響
	地域金融機関が支え手となり共存共栄する地域産業
	市外で自営業を営んできた人がUIJターンで福知山において仕事を続ける際に馴染みのお客を失う事業リスク
	地域金融機関としての業態転換やスタートアップ支援
	意欲ある者が起業にチャレンジし、その創意工夫をサポートする土壌
	国際競争力の高いグローバル企業の誘致
	中小企業の跡継ぎがいないなど事業承継
雇用環境と働き方	現役で仕事を続けながらの在宅介護との両立
	定年後も仕事を続けたい人の雇用の場の確保、スキル習得支援
	大学での研究で芽生えた海外への興味が、海外の仕事に繋がる。
	大学時代のボランティア活動が、将来のキャリア形成に寄与
	産休・育休期間に受講可能なスキルアップ研修
	当たり前になる、妻と入れ替わりの夫の育児休業取得
	福知山でも可能となるフリーランスでの仕事など多様な働き方
	Uターン再就職を考えやすい雇用環境
	地元企業の特徴や労働環境といった情報の収集
	一つの生活拠点に縛られない多様な働き方やライフスタイルの実現
	キャリア形成について、幅広い視点で考えられるようにするためのサポート
メンタルヘルス	多方面への関わりとは裏腹に不安をのぞかせている現役世代のメンタルヘルス対策
	当たり前になっているテレワーク従事者に対するメンタルヘルス対策
観光・プロモーション	海外からの視点に立った魅力のある観光資源の発掘・磨き上げ・情報発信
	国立公園をはじめとする価値ある自然の保全、貴重な歴史・文化の伝承
	福知山の資源に魅力を感じている人、福知山と何らかの関係がある人を、福知山のファンに。福知山との縁結び。
ICT	日々進化していくICTテクノロジーに後れないリテラシー習得
	中小企業でもテクノロジー活用など新技術の導入
その他	青年期になっても自己肯定感を育み、その人なりの努力と工夫を誘発するしくみ

「一人ひとりの市民が幸福に暮らしていける」まちをめざして

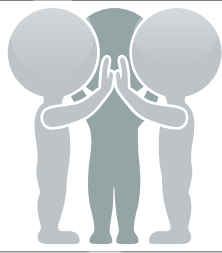



- ・本市の自治推進の最高規範である福知山市自治基本条例はその前文で市民が『ふるさと福知山を誇りに思い「幸せを生きる」』ことを謳っています。
- ・そのような中で、今回、まちづくり構想を策定するにあたって、「幸せ」とはどのようなものかについて、「幸福の4因子」と呼ばれる概念を用いて考えてみることにします。

「幸福の4因子」 (参考:「幸福度を上げる『幸せの4つの因子』」前野隆司)

因子	内容・要素
つながりと感謝の因子	社会の中で生きている人は、周りの人とのつながりのなかで幸せを感じる。多様なつながりや、利他性（他人のために貢献したい気持ち）が強い人ほど幸せになる。
独立とマイペースの因子	自分に集中し、いわば「本当の自分らしさ」を探して磨くこと、自分の好きなことや得意なこと、ワクワクすることを突き詰めていくと、自分でも知らなかった「本当の自分らしさ」にたどり着ける。
前向きと楽観の因子	「ポジティブに考える」こと、常に「なんとかなる」と考えていれば、必要以上に挑戦を恐れることなく、行動に踏み出しやすくなる。
自己実現と成長の因子	夢や目標に向かって「やってみよう」と主体的に努力を続けられる人は、何も行動を起こさない人よりも幸せになる。

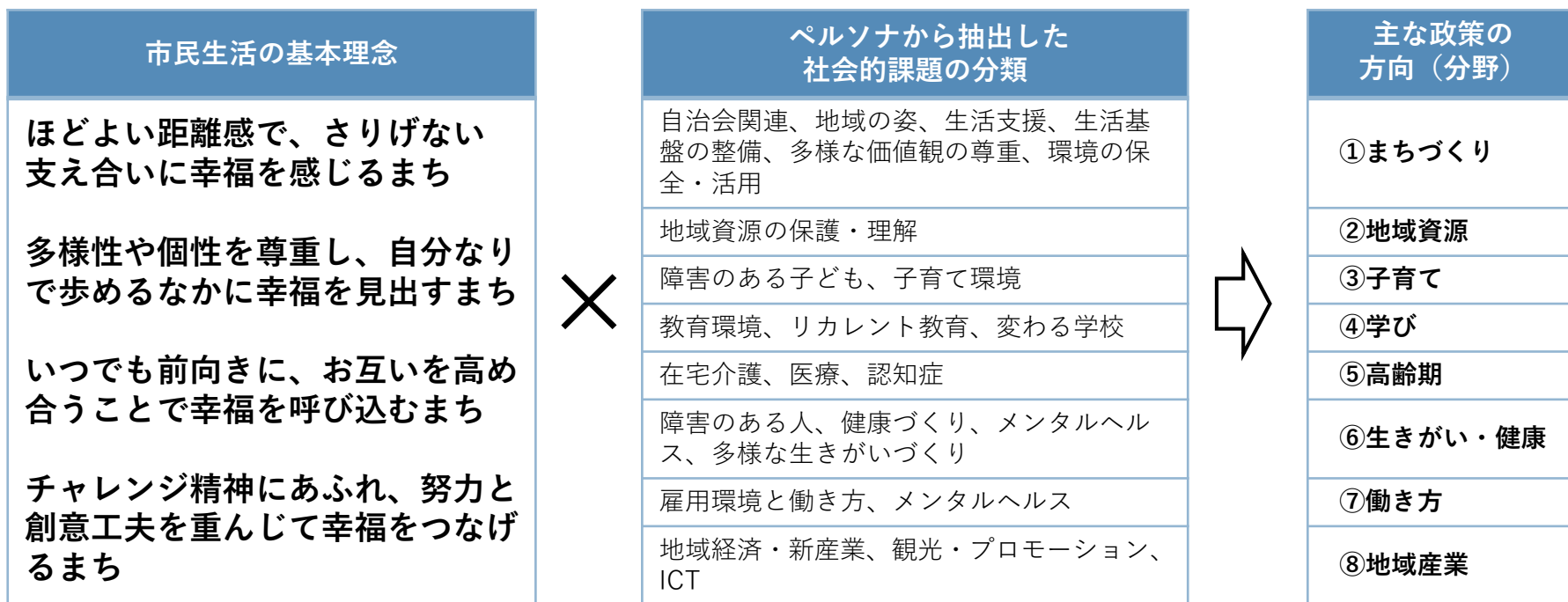
- ・人は、それぞれの人生や暮らしにおいて、悩みや心配を抱え、また喜び、希望などを抱いていますが、それらの中には、個人的な動機や要因によるものもあれば、社会的に共有され、解決や実現を図っていくことにより、多くの人に幸福をもたらす社会的な価値（公共性・共通善）もあります。
- ・2040年の福知山を舞台に、一人ひとりの市民が幸福に暮らしていけるように、社会的な価値（公共性や共通善）をいかに達成していけるか。そんな思いを共有しながら市民懇談会で様々な議論を行ってきました。その中では「人と人とのほどよい距離感」「多様性や個性」「お互いを高め合う」「チャレンジ」といったキーワードも語られました。
- ・そのようなことを踏まえて、「一人ひとりの市民が幸福に暮らしていける」まちをめざし、幸福の4因子を踏まえ、市民生活の基本理念を次のページのとおりまとめました。

市民生活の基本理念

幸福の4因子	キービジュアル	市民生活の基本理念
<p>ありがとう！ つながりと感謝の因子</p>		<p>ほどよい距離感で、 さりげない支え合いに 幸福を感じるまち</p>
<p>ありのままに！ 独立とマイペースの因子</p>		<p>多様性や個性を尊重し、 自分なりに歩めるなかに 幸福を見いだすまち</p>
<p>何とかなる！ 前向きと楽観の因子</p>		<p>いつでも前向きに、 お互いを高め合うことで 幸福を呼びこむまち</p>
<p>やってみよう！ 自己実現と成長の因子</p>		<p>チャレンジ精神にあふれ、 努力と創意工夫を重んじて 幸福をつなげるまち</p>

政策の方向について

市民生活の基本理念の実現をめざしていくために、一人ひとりの市民が幸福に暮らしていけるまちをめざし必要となる政策の方向を、市民生活の基本理念および様々な社会的課題を掛け合わせて、概ね8つの政策の方向として取りまとめます。



以上を踏まえて、次ページで「政策の方向」を整理します。

政策の方向

市民一人ひとりが、

- ① まちづくりの担い手となり、ほどよい力加減で助け合うまち
- ② 自然や地域資源を守り、生かし、次世代につないでいくまち
- ③ お互いを尊重しながら、ともに育み、ともに育つまち
- ④ いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち
- ⑤ 最期まで生き生きと暮らし、温かく見送られるまち
- ⑥ その人なりの生きがいを持ち、健やかで活動的なまち
- ⑦ 生活と仕事の調和の取れた、多様な働き方が生かされるまち
- ⑧ 時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち

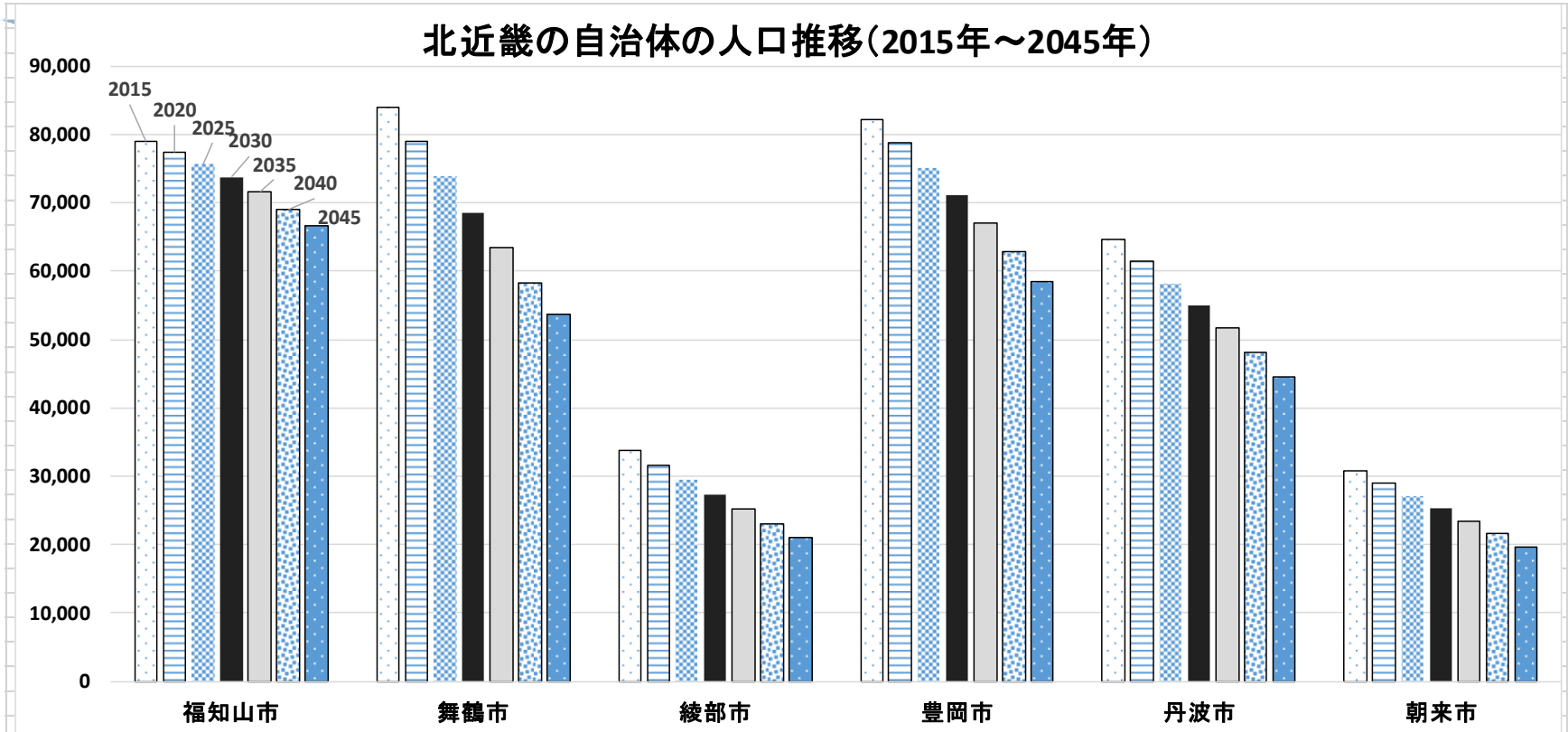
上記①～⑧の推進にあたり、

- ⑨ 持続可能な生活を支える基盤の整ったまち

參考資料

福知山市及び周辺市町の人口動向

北近畿の自治体の人口推移(2015年～2045年)



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	増減[%]
福知山市	78,935	77,420	75,610	73,707	71,521	69,098	66,589	△ 15.64%
舞鶴市	83,990	79,002	73,818	68,587	63,428	58,337	53,627	△ 36.15%
綾部市	33,821	31,648	29,439	27,271	25,119	22,974	20,933	△ 38.11%
豊岡市	82,250	78,760	75,024	71,116	67,076	62,783	58,371	△ 29.03%
丹波市	64,660	61,510	58,269	55,032	51,618	48,117	44,596	△ 31.03%
朝来市	30,805	28,905	27,045	25,256	23,411	21,535	19,657	△ 36.19%

平成30年3月 社会保障・人口問題研究所発表 ※2010-2015国勢調査を基にした推計

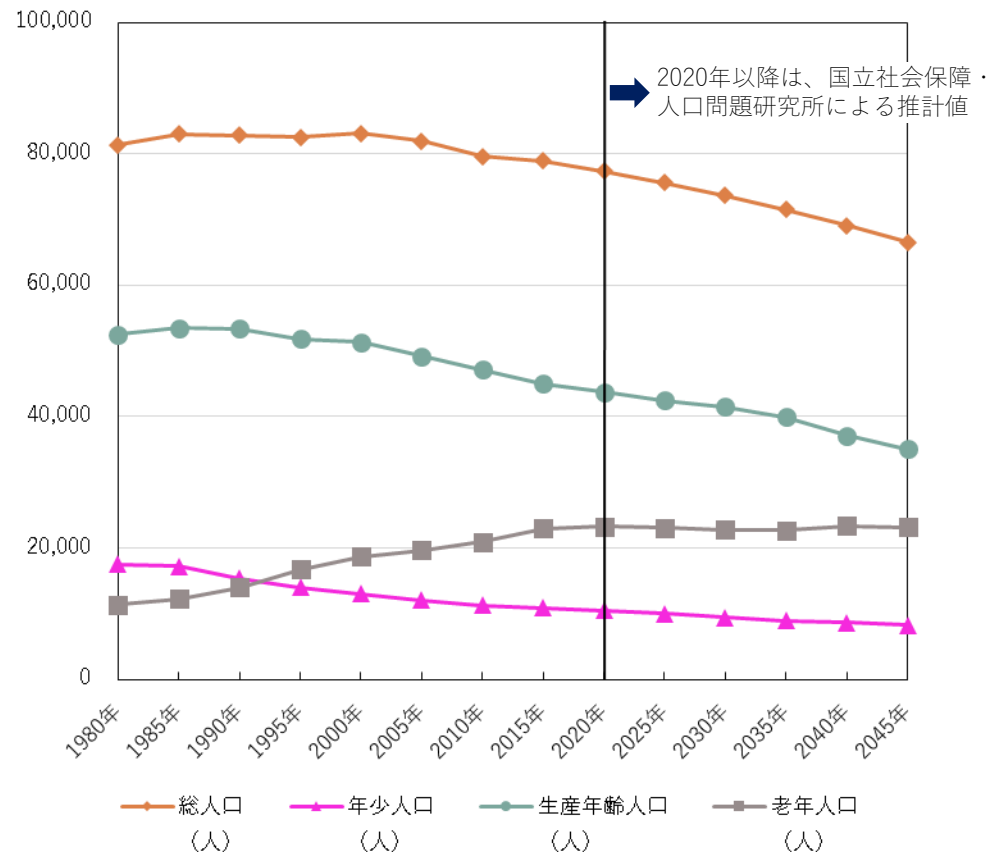
本グラフはあくまで将来予測数値
(本市の2020年の実際の人口は77,349人)

本市の人口減少の見通しと、人口構造の変化

総人口及び年齢3区分人口の推移

	総人口 (人)	年齢3区分人口			年齢 不詳
		年少人口 (人)	生産年齢人口 (人)	老年人口 (人)	
1980年	81,398	17,544	52,504	11,326	24
1985年	83,057	17,218	53,537	12,298	4
1990年	82,791	15,333	53,352	13,992	114
1995年	82,555	14,004	51,843	16,708	0
2000年	83,120	13,018	51,316	18,713	73
2005年	81,977	12,060	49,248	19,666	1,003
2010年	79,652	11,283	47,112	20,912	345
2015年	78,935	10,918	45,045	22,972	
2020年	77,420	10,487	43,710	23,223	
2025年	75,610	10,017	42,515	23,078	
2030年	73,707	9,451	41,452	22,804	
2035年	71,521	8,956	39,909	22,656	
2040年	69,098	8,638	37,133	23,327	
2045年	66,589	8,284	35,086	23,219	

資料：国勢調査(2015年)/2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所



本グラフはあくまで将来予測数値